

宜 基 渉 第 18号  
平 成 26年 9月 9日

第三海兵遠征軍司令官  
沖縄地域調整官 ジョン E. ウィスラー 中将 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

米軍機による夜間騒音について（抗議・要請）

普天間飛行場は、SACO合意から18年、沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故から10年が経過した現在も本市のど真ん中に存在し続け、市民は、航空機事故の危険性や、航空機騒音をはじめとする基地負担を強いられ続けている。

本市は、騒音をはじめとする様々な基地負担について機会あるごとに改善を求めており、市民への負担が大きい外来機飛来及び夜間飛行の中止については特に強く求めている。

しかしながら、米軍機による夜間騒音は改善されず、最近の航空機騒音測定調査結果では、日米間で合意された「航空機騒音規制措置」において運用が制限されている夜間10時を大きく超える深夜0時以降の航空機騒音も測定されている。

また、9月に入ってから騒音苦情は、8日現在で23件となっているが、うち、9件が深夜0時以降に寄せられており、夜間騒音がこれまで以上に深刻な状況となっていることは大変遺憾である。

については、普天間飛行場において激化し、市民の深刻な負担となっている米軍機による夜間飛行について、厳重に抗議するとともに、夜間飛行の中止を強く求める。